

文字意識を高める書写指導のあり方

—— 意欲的に学ぶ書写学習を目指して ——

1. 主題設定の理由

安房地域では、これまでに文字意識を高めるために様々な取り組みをしてきた。昨年度は、5年生において、基準を明確にするための手だてとして、漢字を中心に文字の組み立て方の学習で分解文字の操作をさせた。その結果、意欲的に取り組むことができ文字意識を高めることができた。

児童の視覚に訴えたこれらの活動は、低学年においても有効であると考えられる。そこで、本年度は1年生に焦点を当てて意欲的に学ばせる研究を進めることにした。

1年生の児童は、ほとんどの子が平仮名を読んだり書いたりすることを体験して入学してくる。しかし、文字に対する興味を持ち始める就学前は、身のまわりにある文字を見よう見まねで書き、覚えることが多い。そのため、「とめ、はね、はらい、おれ、まがり、むすび」などの基本点画を意識して書いている子はほとんどいない。

以上のことから、1年生の書写学習においても、基本点画を理解させるための手だてを工夫した指導を行えば、文字に関心をもって学ばせることができ、文字意識を高めることができると考え、本主題を設定した。

2. 研究仮説

○基本点画を理解させるための手だてを工夫すれば、文字を正しく書こうとする意識が高まるだろう。

3. 研究内容

○基本点画を理解させるための手だてを工夫する。
・視覚に訴えた教具の工夫

4. 結 論

○基本点画を理解させるための手だてのひとつとして、分割カードを活用した。そのことにより、文字を正しく書こうとする児童の意識が育ってきた。

1 - 4

安房支部

南房総市立富浦小学校

高梨千鶴子

鴨川市立鴨川小学校

松本 聖子